



1.8/3.5/3.8/7/10MHz

Low-Band DXing

JA4DND 松浦 博美 Hiromi Matsuura

DXCC チャレンジアワードに挑戦しよう!

DXCCアワードとその種類

DXの楽しみ方は各人の環境や興味によって多岐にわたりますが、DX=DXCCとの思いでこの世界にのめりこんでいる人も少なくないと思われます。DXの入門者はまず100エンティティーと交信し、QSLを受領(LoTWを含む)することでDXCCのメンバーとなることができます。DXCCにはMixedの他にCW、Phone、Digital、160m～2mまでのシングルバンドDXCCや5バンドDXCCなど多くのカテゴリーが準備されています。また、Mixed、Phone、CW、Digitalの各モードでは、現存するエンティティーの範囲で残りが1桁(9エンティティー以下)になると“オナーロール”(以下、HR)という賞が与えられます。多くのDXerはまずこのHRを目指してDXを楽しんでいるはずで、その中でも全エンティティーとの交信達成者は、ナンバーワンとして特別な楯をもらうことができます(有料)。

●DXCCチャレンジアワード

DXCCのプログラムは全世界のDXerの挑戦意欲をかき立てる最も権威のあるアワードとして戦後再開されてすでに75年経過しており、FT8などの新しいモードの普及もあつてますます挑戦者が増加しています。その中で

160m～6mの10バンドでモードとは関係なく現存エンティティーの合計が1000以上になると獲得できるのが“DXCCチャレンジ”です。このチャレンジの楯(有償)は他の楯とは明確にデザインも見栄えも異なり大理石

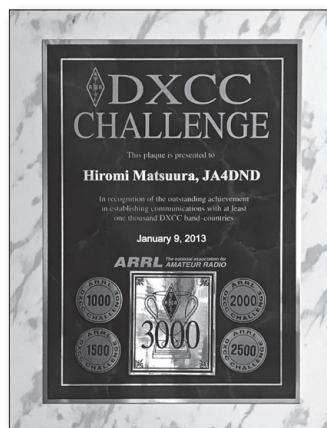


写真1 DXCCチャレンジ3000楯

風で、大きさも1回り大きいものです。さらにエンドースが1500/2000/2500ごとに丸いメダルが発行され楯の指定場所に貼り付けできるように工夫されています。そして3000を達成すると中央に一段と大きな四角のメダルを貼り付けるようになっています。

DXCCチャレンジアワードはDXCCの最も困難なアワードで、その達成者の努力と栄誉を称えるには十分な価値のある楯となっています。チャレンジ3000ポイント達成者は毎年ARRLの発行する“DXCC Yearbook”に掲載され、通称3Kクラブメンバーとして紹介されます。

●DXCCアワードの推移

主なDXCCアワードについて、JA1DM 海老沢 政良著「DXCCアワードのすべて(CQ出版社)」に掲載されている2006年のデータを参考に現在と比較した数字が表1です。この14年間に全世界のDXCCメンバー(Mixed)は1.7倍に増加しています。JAもほぼ同じ割合で増加して現在3300名あまりとなっています。JAのDXCCチャレンジ獲得者はこの14年間で4.3倍の950人となっていますが、これは全世界の3.8倍を超えてJAのチャレンジ挑戦者が大幅に増えてきたことが分かります。参考に、同じ期間のHRメンバーについても全世界の1.3倍より多くJAは1.5倍となっています。JAの比率も15%から17%となり

表1 主なDXCCアワード推移

		2006年5月	2020年5月	倍率
DXCC (Mixed) メンバー	全世界	16,322	27,560	1.7
	JA	2,125	3,327	1.6
	JA比率	13%	12%	
DXCC チャレンジ	全世界	1,734	6,694	3.8
	JA	221	950	4.3
	JA比率	13%	14%	
HR (Mixed) メンバー	全世界	4,214	5,687	1.3
	JA	653	957	1.5
	JA比率	15%	17%	

CQhamradio

表2 DXCCチャレンジ3000以上のエンティティー別局数(2020年5月現在)

エンティティー	局数	割合
W(アメリカ)	51	27%
I(イタリア)	19	10%
JA(日本)	18	9%
DL(ドイツ)	12	6%
SM(スウェーデン)	11	6%

表3 JAのDXCCチャレンジ3000達成者(2020年5月末現在)

		2010年6月	2020年5月	10年間の増加数
1	JA1BK	2261	3190	929
2	JR2KDN	3025	3162	137
3	JH4IFF	3022	3135	113
4	JA4DND	2397	3121	724
5	JA4LKB	2902	3104	202
6	JA3FYC	2976	3103	127
7	JH4UYB	2860	3097	237
8	JR3IIR	2921	3093	172
9	JA5AUC	2888	3090	202
10	JA5EXW	2869	3072	203
11	JF2MBF	2968	3071	103
12	JQ3DUE	2777	3065	288
13	JA2VPO	2969	3032	63
14	JA3EMU	2980	3018	38
15	JG3QZN	2633	3017	384
16	JH1GZE	2122	3014	892
17	JA2JW	2876	3008	132
18	JH2FXK	2772	3000	228

JAの存在感は着実に増えていると考えられます。もっともこの数字は過去の実績も含んだもので、現在の状況を必ずしも反映しているとは言いきれません。一方でDXCCそのものを申請されていない人も少なからず存在しており、それらのデータは含まれていません。実際はこの数字以上にDXを楽しんでいる人は多いと思われます。

●DXCCチャレンジ3000

DXCCチャレンジは2000年に制定された比較的新しいアワードです。チャレンジ3000ポイントは、10バンドでそれぞれ300エンティティーが必要となり、当時その達成は一生かかってもできないのではないかと考えていました。20年経過した現在、全世界で190人、JAでも18人(2020年5月現在)が達成しています。世界の190名についてエンティティー別ではW(アメリカ)が51名(27%)で最も多く、JAは18名でイタリアの19名に続いて3位です。昨年まではJAは2位でしたがイタリアが急増し入れ替わりしました(表

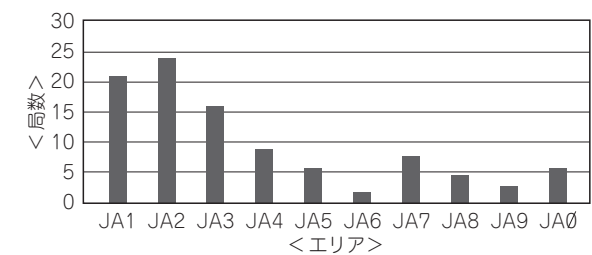


図1 エリア別 DXCCチャレンジ上位100局の分布

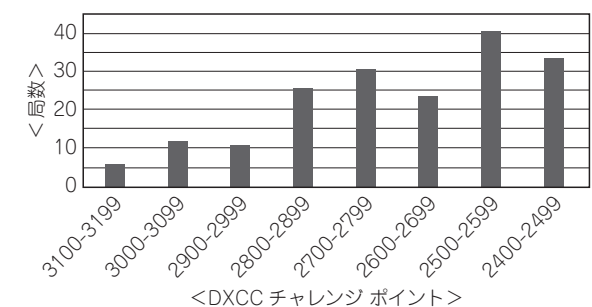


図2 DXCCチャレンジポイント別分布

2). JAのDXCCチャレンジ3000達成者は2010年に2名でした。その後毎年1～2名増で推移していますが最近はやや減少傾向です。この18名の現在のポイントと2010年の状況を比較したのが表3です。この10年で多い人は800～900ポイント増やしています。5月末現在チャレンジ3000まで1桁の人が数名いるので、間もなく3Kのクラブ入りをし今年中には20名以上になりそうです。FT8などの新デジタルモードの普及などで世界的にもこれからは加速的に達成者が増えると思われます。JAでも3年以内に30名前後の達成者が出るのではないのでしょうか。

●エリア別のDXCCチャレンジ参加者

図1は2020年5月現在で上位100局(100位は2629ポイント)のエリア別の分布を示したものです。どういわけかJA2エリアが特に多いのが分かりました。逆に九州と沖縄は少ないように思います。ちなみに3000ポイント達成者は西高東低の傾向がありますね。

●DXCCチャレンジ3000への挑戦

2020年5月現在の獲得ポイントを100ポイント単位で分布を見たのが図2です。

2700～2800ポイントのゾーンに1つの山があります。2900を超えるとさらに挑戦意欲がわくはずで、どこのバンドが弱いのか、自分の強化作戦を立てて長期的視野でDXCCの集大成としての3000ポイントを目指してみませんか。DXCCを申請していない人もこの機会にぜひ申請して、挑戦者間の刺激と熱い思いを共有しDXをいっそう楽しみましょう。

3V8SFの1.8MHz用12m高
バーチカル・アンテナ2019年 CQ 160M CW
CONTEST SO (Low
Power) 部門の優勝権

2019年10月～12月に1.8MHzのFT8でJA向けの運用を行ったAshから最近の状況と今年の秋以降の運用についての情報が届いた。1.8MHzはほとんどがSfax（スファックス）市にある3V8SFのシャックからの運用で、ここには17m高のトップローディングのバーチカル・アンテナが設置されていて、北米向け（全長260m）とJA向け（全長160m）のビバレージ・アンテナとリモート制御可能な4方向のBOGも設置、さらに昨年は4SQアレーの受信システムも完成したという。これらのセットアップの効果もあって、100W運用にもかかわらず157エンティティーとの交信を達成し、昨年のCQ 160M CWコンテストのシングルOP、Low Power部門で優勝。昨年9月から今年の3月までの期間で39局のJAとQSOできたとのこと。Ashはスファックスから130km離れたSousse（スース）市にも3V8SSの設備を保有しているが、ここは市街地にありノイズ・レベルは非常に高いらしい。1.8MHzと3.5MHzの逆Lタイプのアンテナが設置されているが、ここからJAとはQSOできていないそうだ。5月末にコロナウイルスによるロックダウンから解放され、ハイバンドを中心にここから運用している。6月3日の朝には7MHzのFT8でも入感していた。今年も早ければ9月から1.8MHzでバンドがオープンするので、昨年設置した4SQアレーのシステムを活用してオン・エアするつもりとのこと。新バンドプランも含めて期待したい。

👍 5R8UI Madagascar

東アフリカに位置するマダガスカルから各バンドで1年中アクティブにオン・エアしているMikeは、CWでの運用がほとんどで、昨年秋以降は10MHzの10125kHz前後の定位置でたびたび深夜から早朝まで強力な信号

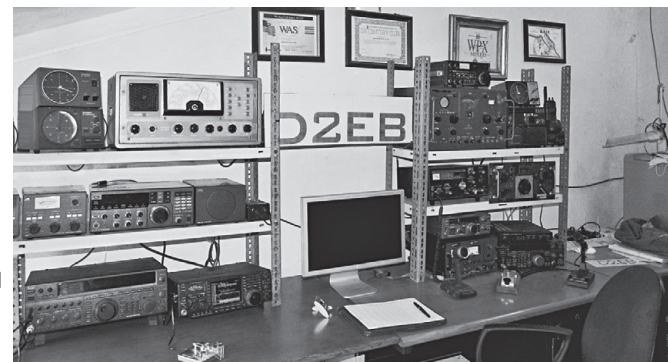
を送り込んできていた。7MHzのCWは5月になって深夜に数回CQが確認されたが運用は少なかったようだ。3.5MHzのCWは2017年秋にQSOした記録はあるがその後あまり聞いていない。Mikeの最近の状況を尋ねた。

「ローバンドの設備はElecraft K3 + ACOM1011 (500W) です。10MHzのアンテナは10m高の、7MHzは15m高のダイポールです。3.5MHzのダイポール（地上高15m）は竹の支柱が壊れているため交換が必要な状態で、7MHzのデルタループ・アンテナも竹製支柱が壊れたまま使っていません。また受信用にダイヤモンド形状の受信用ループを使用しています。ロケーションはノシベ島の首都から15km離れた田舎町ですが、限られたスペースの中でアンテナを設置するのは容易ではありません。停電も多く、家の前のホテルからRFIの苦情が来ることもあります。私はEUやロシア人と違って礼儀正しいJAに興味があります」との回答が届いた。彼のJAの評価は高いようで、このイメージはキープしたいものです。

ここ数年のJAとのQSO数を見ると、アンテナの関係で今年はすで10MHzで114局、7MHzで35局のQSOを記録しているものの、3.5MHzでは昨年以降QRVがない。JAからは新バンドプランと合わせて1.8MHzのニーズがまだ高いことは伝えてあるので今後に期待したい。

👍 D2EB Angola

毎年ローバンド・シーズンになると、アンゴラから必ずCWで聞こえてくるのがD2EB Gabrielだ。アンゴラ首都ルアンダから非常にアクティブにオン・エアし、

D2EBのシャック
IC-756やIC-775が見えるが100W運用5R8UI自作の
10MHzダイポール・アンテナ5R8UI Mikeの運用はCWオンリー
今年は10MHzが多い

D2EBのMosley PRO-67とG5RV（写真では見えにくい）でQRV

特にJAに対してはいつも注意を払って、親切にQSOをしてくれている。現在は現地の大学の社会学部で人類学などを教えているそうだ。

彼からの情報によると「イタリア生まれ。父の影響でハムラジオに興味を持ち、1974～1980年までCBで活動した。1983年にアンゴラに移り、シーメンスの受信機とMosley S33のアンテナでSWLを開始。1992年にCWの試験を受けてIK3UMWで開局した。1995年にD2EBのコールサインを取得し、1996年にカメルーンでしばらくTJ1MGを運用して初めてJAとQSOした。この時JAの良質なマナーに驚いた。また数年間D3SAFで運用したが2003年まではJRCのJST135とhy-gain TH-3JRで運用。現在はICOM IC-775 + Mosley PRO-67だが、今年からG5RV (1.8/3.5MHz) を設置し3.5MHzでの運用を開始した（3月2日07JST 3520kHzのCWがRST 449で入感）。現在100WでCWのみの運用だが、皆さんにその興奮を味わっていただきたい。各バンドでJAが聞こえた時は必ずアンテナを向ける。私はJAとのQSOのその雰囲気が大好きで、EUはJAのモラルをもっと研究する必要があると思う。ローバンド用のG5RVは設置したばかりでまだ経験不足だが、今後さまざまな構成を実験し楽しみたい。ローバンドに専念する時間と関心を持ってその重要性を発見したい」とJAのマナーを非常に高く評価しています。この評価を裏切らないよう注意したいものだ。また彼にとって1.8MHzは今後挑戦する領域だが、アフリカのアクティビティーにつながることを期待したい。

👍 MI0SAI Northern Ireland

昨シーズン1.8MHzのFT8で連日CQ JAを連発し、多くのJAを相手にSPLITでQSOしてくれたSimonから情報が届いた。彼の運用場所は北アイルランドの南部Ahorey（アホレイ）という小さな田舎町で、昨シーズンから1.8MHzのFT8を始め、IC-7300の80W出力とアンテナはワイヤ・ダイポール。この設備で昨シーズンは78局のJAと交信できたそうだ。確かに信号は不安定な時も



MI0SAIはIC-7300 80WでJAと78 QSO (1.8MHz FT8)

あったが、熱心にCQ JAで長期間1908kHzに集中してくれた。手持ちの古いリニア・アンプは1.8MHzでは動作しないようだが、今後リカバリーできればさらに強力な信号が来るだろう。北アイルランドでは他にMI1ERLやGI4SNAが1.8MHzでアクティブだが、今年はJAの新バンドプランの効果でさらにチャンスが広がりそうだ。

MI0SAIのアンテナ
上は7MHz用ロータリー・ダイポール、下はOptibeam OB16-5。1.8MHzはタワーを利用したワイヤ・ダイポール

👍 1.8/3.5MHzバンド拡大に伴う JARLのバンドプランについて

本誌先月号の本稿でガイドライン案を提起したが、若干の読者からおおむね理解できるとのコメントがあった。6月になってJARLのアマチュアバンドプランの改定版がそのホームページに掲載された^{*}。内容的には筆者のガイドライン案と大きな差異はないが、海外の実態を踏まえた整合性との観点からまったくその説明がない。例えばメジャーなコンテスト時の対応はこのバンドプランにはよらないのが世界共通の認識となっている（先月号の本連載記事参照）。またこのバンドプラン表には、法的（総務省告示）に設定されている部分と今回のローバンドの拡大部分のいわば紳士協定的な内容が同一に表示され、その注釈もなく大きな誤解を生む要素を持っている。少なくとも海外局には法的な情報をアナウンスする必要がある。海外向けの英語版JA BAND PLANはFEDXPのホームページからダウンロードできる。海外局にPRする場合はこのPDFを活用してほしい。

<http://www.fedxp.com/bandplan/index.html>

Ⓒ